「南アジア地域連合内自由化で生まれるビジネスチャンス：投資家ガイド」

European Commission Asia-Invest Programme, “Business Opportunities through Liberalization in SAARC; An Investor’s Guidebook”

欧州委員会アジア投資促進プログラムによる欧州企業向けの南アジア投資ガイドが、最近出版されました。ヨーロッパから見た南アジアということで、視点を変えて参考になることもあるかもしれませんので、主な点を拾ってみました。

- まず、全般的にこの地域の天然資源や人的資源を活用し、また貿易をもっと伸ばす余地がある。しかし、これまでの様な近視眼的な態度、政治対立、相互不信に再び戻りせつかくの機会を逸してしまう可能性もあると指摘しています。
- 次に、ヨーロッパにとって今が SAARC 地域でのビジネスチャンスである 10 の理由を、(1) 経済成長の速度、(2) 購買力のある中産階級が増えていること、(3) 経済改革が進んでいること、(4) 民間セクターを成長のエンジンと位置づけていること、(5) 世界経済にますます組み込まれつつあること、(6) 地域内、地域外との国際協調を進めていること、(7) SAARC 地域出身者が EU 内に多くいること、(8) 平和と繁栄の必要性が認識されつつあること、(9) ASEAN、中国などとのアジア内での繋がりが強まっていること、(10) 変化に対して肯定的な見方をするようになってきたこと、としています。
- 一人当たりの国民所得でなく、購買力平価で計算すると 2003 年の計算でバングラデシュは 1,870 ドル、パキスタン 2,060 ドル、インド 2,880 ドル、スリランカ 3,730 ドルなどとなっており、申告していない所得の割合が 3 割程度あるといわれていることを更に考慮すれば、通常の統計に現れる以上のかなりの購買力が出てきていること。
- SAARC 域内を更にサブ地域に分けると、ASEAN 諸国との綱外を深めつつあるインド南部とスリランカの南部地域、更に南部地域より遅れているものの鉱物資源の豊富な中部と北部インド・ネパール・ブータン・バングラデシュからなる東北地域があり、パキスタンは独立した地域となっていると指摘。
- バングラデシュは輸出の五割がヨーロッパ向けという例外的な状況で、他の SAARC 各国からの輸出はヨーロッパ向けの割合が少ないこと。
- 域外からの投資はインド (70.4%)、パキスタン (23.2%)、スリランカ (3.8%) でほとんどを占めている (2003 年の数字)。ヨーロッパにとっては貿易面よりも投資面での繋がりが深い。逆に南アジアからは、インドの企業が EU の新規加盟国に投資をしていることが注目されます。
- 現在ヨーロッパ企業からの投資の主なセクターは、織物・衣料品、宝石・宝飾品、オフィス事務などのアウトソーシングとなっており、今後、インドから次第にバン

グラデシュへ、更に業種によってはネパールやスリランカへもシフトする可能性もあると予想しています。

- 有望セクターとしては、自動車・自動車部品、観光、食品加工、交通インフラ、エネルギー、アウトソーシング、織物・衣料、医薬品を挙げています。
- 最後に、(1) SAARC は ASEAN ほどの「ブランド力」はないが、経済規模の大きいインドと他の国々との経済的統合が徐々に進みつつある機会を捉え、(2) 障害を機会に変え、(3) 域内の高度な技術を持った人材を利用し、(4) ヨーロッパ在住の南アジア出身者を活用しつつ、この急成長を遂げつつある SAARC 地域との貿易と投資を促しています。

<目次>

- 1 . なぜ SAARC 諸国と貿易・投資をするのか？
- 2 . 地理、インフラ、天然資源の状況
- 3 . EU・SAARC 間の貿易・投資環境
- 4 . 政治、経済、ビジネス、災害面でのリスク
- 5 . ビジネス環境
- 6 . SAARC で操業している企業の意見
- 7 . 貿易・投資に成功するには
- 8 . 有望セクター
- 9 . 今後の SAARC でのビジネス機会について

ガイド（英文）は、以下のリンクからダウンロードできます。

http://europa.eu.int/comm/europeaid/projects/asia-invest/download2002/study_saarc.pdf